

八重山地区普及活動状況

伊礼勇雄

I 普及活動実施状況

1. 研究グループ活動状況

研究グループ名	グループ員数	住 所	会 長 名	漁 協
海豊漁業研究会	11人	沖縄県石垣市 字登野城485	玉城光将	八重山漁業協同組合

(1) 漁船漁業研究グループ活動状況

(i) 一本釣り漁業の巻揚機の導入

若手漁業者が中心となり、漁具漁法の改良を目的とし組織された研究会でその一環として老齢化及び人手不足で悩む一本釣り漁業の労力の省略化、生産向上を図るため巻揚機の導入を図った。

(2) 増養殖研究グループ活動状況

(i) モズク増殖事業

現在、増養殖関係を目的とした研究グループは組織されていませんが、浅海増殖の見地から八重山漁業協同組合とタイアップし、県、市の協力を得て名蔵湾の一角にブロック3,000個投石した。

当初、ブロック投石の時期が遅く胞子の着生が心配されたが、投石1ヶ月後調査した結果、浅海のアマモ藻類のところは着生が早かった。

(3) その他協力団体地域企業との連携

ウナギ、スッポン養殖業者を対象に新垣専技の指導へて魚病、水産用医薬品使用状況について調査した。

その結果、業者は魚病に対する認識が浅く、そのため病気になった場合、処方がわからず困りは

てると云う状況、然し、中ではこれまでの経験や技術により、これ等問題点を克服し養殖業として軌道にのっている業者もいる。

2. その他の活動状況

(1) 漁業懇談会

年月日	場 所	内 容	参加 人 員	漁業者の反応	普及員の所感
49. 4. 24	川 平	蓄養施設の活用方法 法について(アオリ イカ)	10	1. 研究会が中心に なり、一本つり漁 業の漁具、漁法の 改良を図り、その 効果テスト 2. 今後の課題であ る集団操業の取組 み 3. 新漁具、漁法の 導入とそれに対す る助成 4. 婦人部の結成と 同時に今後の漁協 育成の取組み	1. これら研究会の若 手漁業者の先進地を すすめ漁船漁業の漁 具漁法の改良と科学 装備の導入を図り、 もって生産向上に寄 与させたい。 2. 融資資金の説明を 行い、その資金利用 の普及に努める。 3. 今後、新漁具漁法 の導入を図り、適応 化試験を行い普及す る。 4. 婦人部の結成と併 せて研究会の結成を すすめる。
6. 22	登 野 城	一本つり漁業者と懇 談及び映写会	15		
9. 28	"	海豊漁業研究会結成 指導	9		
10. 28	"	海豊漁業研究会と漁 具改良について懇談 会	7		
11. 1	"	一本つり漁業者と巻 揚機について説明	15		
50. 2. 14	"	沖縄沿岸漁業振興特 別資金利用の説明	30		
2. 20	新川, 新栄町	同 上	50		
2. 17	与 那 国	同 上	20		
2. 20	八 重 山 漁 協	深海立延縄漁法説明 と映写会	30		
2. 27	登 野 城	八重山漁協登野城地 区婦人部結成	30		

まとめ：伊礼勇雄

II 調査及び課題活動状況

1. 一本つり漁業の巻揚機の導入について

(1) 目的

現在、1～3 屯未満の漁船を使用している一本つり漁業は水深300～500 mを主漁場に操業していますが、揚縄作業に要する時間と労力のウエイトが大きい。

従来使用している巻揚機(手動式又は手動式に自動車のミッションを連結したもの)は小型漁船の面積を占め縄の揚げおろしの際に連結したシャフトに縄や道具類がからみ危険で、然も操業中機関をフル回転する為、油の消費や労力の消費が大である。

以上の事から若手漁業者が中心になり、先進地(神奈川県)視察する事により、一本つり漁業の労力の省力、生産向上を図るため八重山漁協の協力を得て神奈川水試から巻揚機1台とりよせた。

(2) 経過

水深約400 m(縄の長さ500 m)の漁場で手動式と導入した巻揚機の操業を実施した結果、下記のとおりでした。

操業中の比較

種類	当初揚縄時間	その後揚縄時間	当初揚縄回数	その後揚縄回数	使用漁業者	水揚高 9月	利点及欠点
手動式	9分	10分	10回	9回	26才 経験4年	230 ^K	労力のウエイトが大きく他の作業が無理
導入巻揚機	10分	10分	10回	10回	49才 経験30年	270 ^K	時間の余裕があり、他の作業ができるとともに老令化していく漁業者に大いに役立つ。

このことは手動式の巻取の大きさによっても時間差はありますが、この表から見てもわかるように労力の省略化に大いに役立つ事が判明した。

この事から、今度神奈川水試から改良された巻揚機を導入し、漁業生産の向上に努めた。

(3) 結果

導入した巻揚機については前述したように一部グループ内の操作結果にすぎないのでまだ改良すべき点は充分あるが、次のことがわかった。

- (イ) 労力の省略化
- (ロ) 小型漁船に据付が便利
- (ハ) 操業回数が増える
- (ニ) 漁業生産の向上

(4) 今後の問題点

この巻揚機は神奈川県水試の厚意により試作品をとりよせたもので、テスト製品のため、値段(16万円)が高く、漁業者に普及できるか否か問題であったが、その点を留意しながら、この巻揚機の利点を漁業者に説明した。

例えば、この巻揚機の耐久性、揚縄時の自動減速、又は現巻揚機のように機関のかけっぱなしがなく1人で2台も操作操作が可能で将来漁獲生産向上に役立つなど、こう云った時点で立ち指導した。然し今後改良すべき点は次のとおりである。

- (イ) まず普及するには値段が高く、本県のような亜熱帯ではスプール(合成樹脂)に変形が生じるので強化プラスチックへの改良が必要である。
- (ロ) モートルを入れたボックスが鉄製のため海水による錆がひどく、そのボックスの強化プラスチックへの改良
- (ハ) モートルと連結した鉄心棒をステン心棒への改良
- (ニ) 操作中における縄おろしに起る外ビンに縄糸がからみ、まき餌の無駄が多い。
その為に糸案内を設けること。

手 動 式



